



七夕まつり

70

このコーナーでは、昔から市内で語り継がれている言い伝えなどを、池原さん流の描画で紹介します。



題字・絵・文／池原昭治氏



池原さんのプロフィールやほかの作品はこちら



七夕まつりがやってくる(市ゆ)

昔、七夕は里芋の葉菜にたまった露で墨をすり、短冊に字を書いて竹につらした。七夕が終ると竹飾りは芋畑に立てたり、不毛川に流した(入飾)。昔は七月七日はお盆の七日前までお盆のしたくをする日だった(盆大富)

七夕の行事はけん牛と織女の糸もがたりという、堀兼では作神様とした(堀兼)

昔は五穀豊穡や無病息災、雨乞いも願い竹飾り立て八日に赤間川に流した。

(入間川)昭和に入り商店街では大きな竹飾りも盛大に飾ると見物人もふよふの後ラジオも放送され増々人気が高まり現存では、関東有数の「七夕まつり」となりました。今年の「入間川七夕まつり」は八月一日(土)二日(日)に行われます。狭山市の夏の風物詩である七夕まつり、今年も楽しんでください。



分かるかな？

今月の写真クイズ

写真は、今月号に掲載した写真の拡大写真です。何ページの何の写真でしょう？



正解者の中から、抽選で5名に記念品を差し上げます。郵便はがきに、住所、氏名、電話番号、クイズの答え、感想を記入して広報課宛(〒350-1380 入間川1丁目23番5号)にお送りいただくか、右の二次元コードから応募してください。



締め切り7月31日(金)

6月号の答え

9ページ「まちの今…これからの「共創ラボCafé『SAYAMA CROSS』がオープン」の写真でした。



編集後記

もうすぐ七夕まつりですね。特集記事の作成を担当し、お祭りに関わりのある皆さんにインタビューして回ったこともあり、早くもすっかりお祭り気分です。皆さんにお話を伺っていて印象的だったのは「ぜひお祭りに参加して、もっと楽しんでほしい」とおっしゃっていたこと。話を聞いてから「参加」って何だろう、どんな形があるだろうと考えていました。飾りを作ったり、お囃子を披露したり、ボランティアとして活動したりと、人によっていろいろな携わり方があります。お祭りに対して、主体的に向き合うことが「誰かの祭り」ではなく「自分の祭り」となり、より楽しむことにつながるのだらうと思います。私は今年、矢来飾りを作ることで参加する予定です。

参加の形は自由。まずは、当日の竹飾り投票や短冊記入コーナーで願い事を書いてみるなどはいかがでしょう。



人口と世帯(市民課)

※人口は6月1日現在()内は前月比。転出入等は1カ月間の累計

男	73,234人(-12人)	転入等	464人
女	74,077人(-6人)	転出等	403人
合計	147,311人(-18人)	出生	58人
世帯	73,853世帯(+85世帯)	死亡	137人



マチイロ「広報さやま」がスマホで見られます！



LINE 狭山市LINE公式アカウント ID:@citysayama

